

立命館 災復 害興 支援室

瓦版

かわらばん

【第31号】2016年10月24日発行

【ご協力お願い】

■復興+R基金 被災学生支援金へのご協力お願いします！

平成28年熊本地震により被災した立命館在学生の生活を経済的に支援するため、「復興+R基金 熊本地震被災学生支援金」への寄付の募集をしています。

この寄付は、立命館の教職員有志を中心に、卒業生などにも呼びかけ、既存の奨学金制度の学費支援だけでは学業継続が厳しい学生の生活面を支援します。

- (1)寄付金使途 立命館大学、立命館アジア太平洋大学に在学する被災学生の経済的支援
(月額5万円を支給 対象学生約20名)
- (2)申込方法 災害復興支援室までお問い合わせください
(連絡先) Mail:311fukko@st.ritsume.ac.jp
TEL:075-813-8282



【活動レポート】

■平成28年熊本地震 学生ボランティア農作業をお手伝い (第3・4回)

5月、6月と継続的に続けてきた熊本県阿蘇郡西原村での農業支援のボランティア活動は、7月8日(金)～11日(月)に第3回目の活動を実施し、学生15名が活動しました。また、10月14日(金)～17日(月)にも第4回目の活動を実施し、学生27名が参加しました。

(株)名門大洋フェリー様、阿蘇ホテル様からの継続したご協力のもと、西原村百笑応援団(旧 西原村農業復興ボランティアセンター)のコーディネートにより、生活再建を目指す農家の作業をお手伝いしました。

第3回目は、1日目に立命館アジア太平洋大学の学生、教員のボランティアグループ、九州大学など他大学の学生ボランティアとの協同作業で、広大な茗荷(みょうが)畑に散乱する石を

拾い、除去する作業を行いました。2日目は、男女2班に分かれ、男性班は、地震によって倒れた椎茸の原木を並べる作業、女性班は、収穫前の鬼灯(ほおずき)の葉を取る作業を行いました。宿泊先の阿蘇 ホテル2番館は、被災者の受け入れをされており、空き時間に話を聞く学生がいました。

第4回目は、第1回目と第2回目に作付けした唐芋(からいも)を収穫しました。広大な農地にたくさん実った唐芋を学生たちは丁寧に収穫していきました。この唐芋は、10月30日(日)に立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催する学園祭にて、活動に参加した学生達がスティックポテトにして販売します。

＜参加した学生の感想＞

「現地で過ごす時間が経過するにつれて、徐々に熊本地震の爪痕の深さを感じた。復興したかしていないかは、よその者が見て決めることではなく、被災された方々自身が感じていくものだからこそ現地の人に寄り添う姿勢が大切であることに気づいた。」「最近、メディア等では熊本地震のニュースが少なくなってきたように感じます。復興が進んでいるのかということはまだ災害時のままの家屋など、震災の影響が残っている場所も多くありました。復興とは何か、ということを考える機会となりました。」「今回で3回目の参加。農業は夏が近づいているのにまだまだ植えたりする作業が終わっておらず、ボランティアの不足や現地の方々が普段の生活に完全には戻れていないことを感じました。」「(第3回参加)



「今回の農業のボランティアをして、『楽しい』こと、『現地の方の笑顔を引き出す』こと、これらのようなボランティアもあるんだって、初めて気づきました。これは、わたしにとって本当に貴重な考え方で、とても、いろいろ考えさせられる活動になりました。」「今回の唐芋の収穫は、確かにそのどこがボランティア?という方もいると思いますが、まわりまわって、住民の役に立つと思うので、思い立ったら行動してほしいです。」「(第4回参加)



唐芋=サツマイモ→

■ 後方支援スタッフ派遣プロジェクト34便 福島県楢葉町民の聞き綴り活動

2015年9月5日、避難指示解除を迎えた福島県楢葉町。避難指示が解除される町民の方に向き合う活動として、昨年、楢葉町民の「これまで」と「これから」の思いを「ならば、31人の『生』の物語」として写真と言葉により記録に残す活動を一般社団法人ならばみらいの協力の下、行いました。聞き綴りをした31人の町民の方の声は、福島県や京都で行われる様々なイベント等で掲示して、多くの方に声を届けました。

あれから1年、去年に引き続き町民31人の方の思いを聞き綴る活動を、学生13名が8月30日(火)～9月6日(火)に行いました。

活動前の8月3日(水)に事前研修を行い、福島県や楢葉町のこと、放射能や放射線について学びました。現地での初日は、一般社団法人ならばみらいの方から町内を案内いただき、楢葉町の現状を学びました。2日目からは、グループに分かれて町民31人の方にインタビューをし、「ならば、31人の『生』の物語」を作成しました。作成したものは、楢葉町の若者が企画した「ホツアール2016～復興祈念の集い～」で展示し、イベント参加者に31人の思いを届けました。

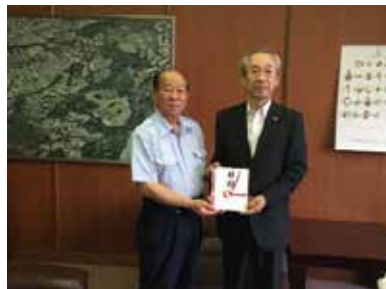


■ 吉田総長が熊本県と西原村を訪問、義援金をお渡ししました

2016年8月26日(金)、吉田美喜夫 立命館総長と塩崎賢明 立命館災害復興支援室副室長が熊本県の蒲島郁夫知事と西原村の日置和彦村長を訪問し、5～7月に実施した学生・教職員による西原村での農業支援ボランティア活動の報告を行いました。あわせて、卒業生、父母、大学および付属校の教職員から寄せられた義援金の目録をお渡ししました。



↑右から蒲島知事、総長 ↓左、日置村長



■ 政策科学部4回生「地域創造基金さなぶり賞」受賞

2016年6月、政策科学部4回生の三浦なつきさんが、東日本大震災後からの復興・創世期の5年間（2016年～2020年）に、各地域が取り組むべき課題などを調査や研究結果から導き出すことを目的とした「第1回現場で役立つ復興論文大賞」で特別賞「地域創造基金さなぶり賞」を受賞しました。

三浦さんは高校生の時に東日本大震災を経験し、大学1回生の時から東日本大震災をテーマに研究したいと考え、東日本

大震災後の防潮堤建設の政策形成過程の分析を研究テーマに取り組みました。論文では、原子力発電所の爆発事故の処理対応などを例に公共事業策定における中央政府の「閉じられた政策形成過程」を問題視し、地域住民の暮らしのために「開かれた政策形成過程」の大切さを訴えるほか、民間のアイデアを政策に取り入れた事例を紹介しています。



■ 岩手県大船渡市 碁石海岸観光まつり 課外自主活動団体が参加

2016年5月2日(月)～6日(金)、岩手県大船渡市で開催された「碁石海岸観光まつり」の企画協力として、奇術研究会マジックプレイヤーズ、モダンジャズバレエ部、書道部が参加しました。

小雨が降る中、ステージでは、奇術研究会マジックプレイヤーズがマジックを、モダンジャズバレエ部がダンスを披露しました。書道部は、屋内で書道体験企画を実施しました。また、碁石海岸まつりの餅撒き企画では、餅撒きの役を担わせていただきました。



■ 復興支援インターン参加学生 石巻市のたらこ作りイベントを開催

2016年6月13日(月)・14日(火)、宮城県石巻市の湊水産(株)で復興支援インターンに参加した学生有志による企画「たらこで味わいなおす東北 たらこ、つくろう。」を衣笠キャンパスで開催し、Myたらこ作りの体験や、試食などを行いました。

当日は、湊水産のみなさんが京都まで足を運んでくださり、「体験であろうと本

当に美味しいたらこを作るために」と一つ一つ丁寧に教えてくださいました。



編集後記

今年の夏は、夏期休暇を利用して東北・熊本の支援活動を行った学生による活動が様々あり、今号だけでは全てをご紹介することが出来ませんでした。ご紹介できなかった取り組みは、次号以降でご紹介したいと思っておりますが、災害復興支援室のホームページやfacebookでも随時情報を掲載していますので、是非ご覧いただけますと幸いです。ご覧いただいた際は、「いいね!」やシェア等もよろしくお願ひします。

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要性があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しました。<公式 web <http://www.ritsumei.ac.jp/fukkor/>>